環境負荷低減に関する活動

事業活動のマテリアルバランス

名古屋大学では、事業活動（教育、研究、医療活動）に伴って発生する環境負荷を把握し、データを集計・分析して環境負荷低減に努めています。

INPUT		OUTPUT	
電 気	13,889万kWh	CO_2 排出量	76,766 t-CO_2
都市ガス	4,075千㎥	排 水 量	849千㎥
水道水	258千㎥	一般廃棄物／産業廃棄物	2,284 t ／ 1,471 t
井戸水	591千㎥		
紙 類	237 t		
化学物質	137 t		

大学活動 →

エネルギー使用量・CO_2排出量

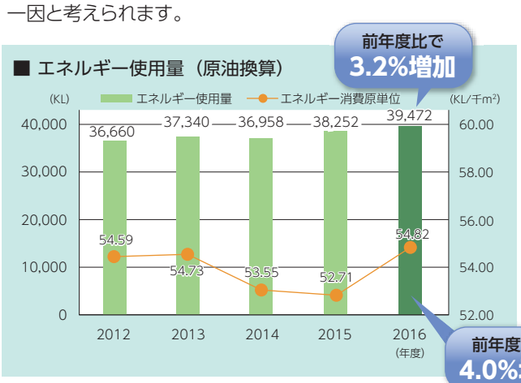
■エネルギー使用量

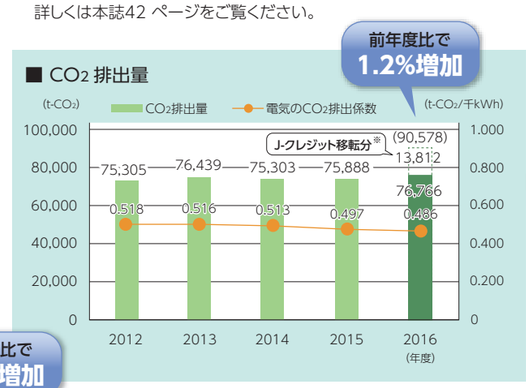
2016年度は、2015年度に建設された建物の本格稼働などにより、エネルギー使用量は前年度比約3.2%の増加となっています。増加要因として、名古屋市の平均気温が前年度比で夏は約0.5℃高く、冬は約1.2℃低かったことも一因と考えられます。

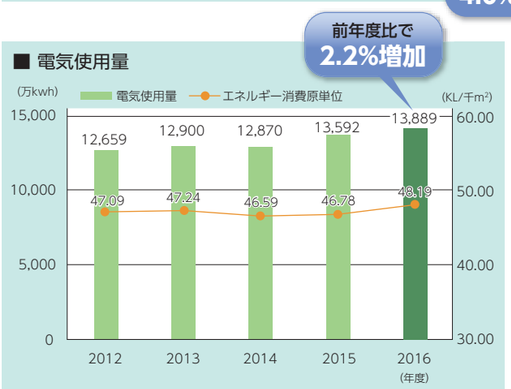
■CO_2排出量

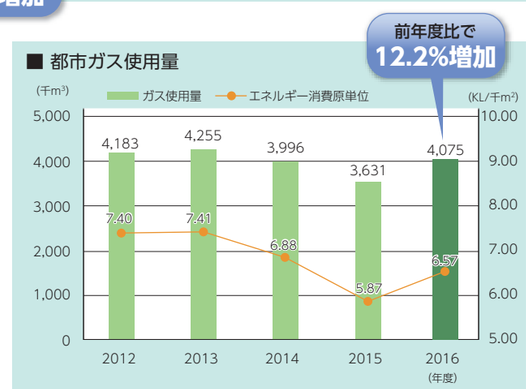
エネルギー使用量は約3.2%の増加となりましたが、CO_2排出係数が改善されたこともあり、約1.2%の増加に抑えられています。

※省エネ活動によりクレジット認証されたCO_2 排出量削減事業分です。詳しくは本誌42 ページをご覧ください。









国立大学法人名古屋大学 環境報告書2017
（ダイジェスト版）

NAGOYA UNIVERSITY

クローズアップ① 環境に関する教育・研究

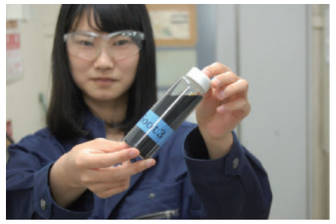
教育 情報文化学部「環境フィールドセミナー」

情報文化学部では、環境教育の一環として学外授業「環境フィールドセミナー」を実施しています。物質やエネルギーの利用をテーマとし、国全体や世界など、マクロな視点から学んだ環境問題にミクロな視点を補完する目的で、地域の廃棄物処理施設や発電所の見学を行っています。学生にとって、身近なところから環境について考える機会となっています。（本誌P15、16に掲載）

メガソーラーたけとよの見学

研究 自動車の排気ガス、きれいにします

工学研究科 応用物質化学専攻 触媒設計学グループでは、大気環境の改善や省エネルギーなどの課題の解決を目指し、自動車触媒、燃料電池などの研究を進めています。本誌では研究室に所属する学生自らが研究内容や研究を進める上で苦労している点、研究の今後について紹介しています。（本誌P19、20に掲載）

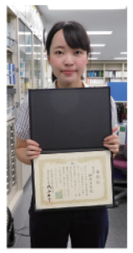


ディーゼル車から回収した“スス”です。
効率的な燃焼除去を検討しています

クローズアップ② 「環境報告書2017 表紙作品公募」

環境報告書のPR活動の一環として、または環境について考えるきっかけとなる期待を込め、2016年度から表紙作品を公募しています。2017年度においても多数の素晴らしい作品の応募があり、選考の結果、大賞は情報学研究科技術補佐員の河口有砂美さん、優秀賞は文学部3年の榊原吉恵さん、附属高校3年の鈴木栞さんの作品が選ばれました。作品を通じ、名古屋大学の環境の豊かさを感じ、その環境を将来にわたり守っていくことの大切さを認識しました。

受賞者の河口さん(写真左)と鈴木さん(写真右)



受賞者の榊原さん

受賞作品

【大賞】
情報学研究科 技術補佐員
河口 有砂美さん
（本誌表紙に掲載）

【優秀賞】
文学部3年
榊原 吉恵さん
（本誌P52に掲載）

【優秀賞】
附属高校3年
鈴木 栞さん
（本誌裏表紙に掲載）

入賞作品の作品紹介を本誌54ページに掲載しています。

本誌は名古屋大学内の図書館、公開施設、地域のコミュニティーセンターなどでご覧いただくことができます。また、施設管理部ホームページでも公開しております。

名古屋大学環境報告書：http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/06other/guideline/e_rpt.html

掲載記事の紹介

名古屋大学の環境に関する教育・研究や学生の環境活動など多岐にわたる環境活動をダイジェストで紹介します。

環境報告書の本誌は下記のWebページでご覧いただけます。

http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/06other/guideline/e_rpt.html

右のQRコードからもご覧いただけます！

附属学校の環境学習

教育

附属学校では中学・高校一貫教育を生かした環境教育を行っています。中学ではグループ研究やフィールドワークの実践により、自然現象や社会環境への興味・関心の育成を行います。高校では中学で培った幅広い興味関心に基づき、本格的な課題研究を行います。

(本誌P11、12に掲載)

治水資料の宝庫「高木家文書」

研究

附属図書館が所蔵する「高木家文書」は旗本・西高木家の旧蔵文書群です。木曽三川流域の治水関係資料が非常に多く伝来していることで知られており、流域の自然環境や歴史・文化・技術を考えるうえで第一級の資料群として、流域の自治体等と連携しながら、研究・活用しています。

(本誌P21、22に掲載)

NIC多世代共用スペース

社会的責任

教職員や学生とその家族をふくめ、多世代の人々が仕事や交流を行える「子連れ利用可能なコワーキングスペース」として、2015年にNICにオープンしました。ワークとライフの間の新しいスタイルを発信する場となっています。

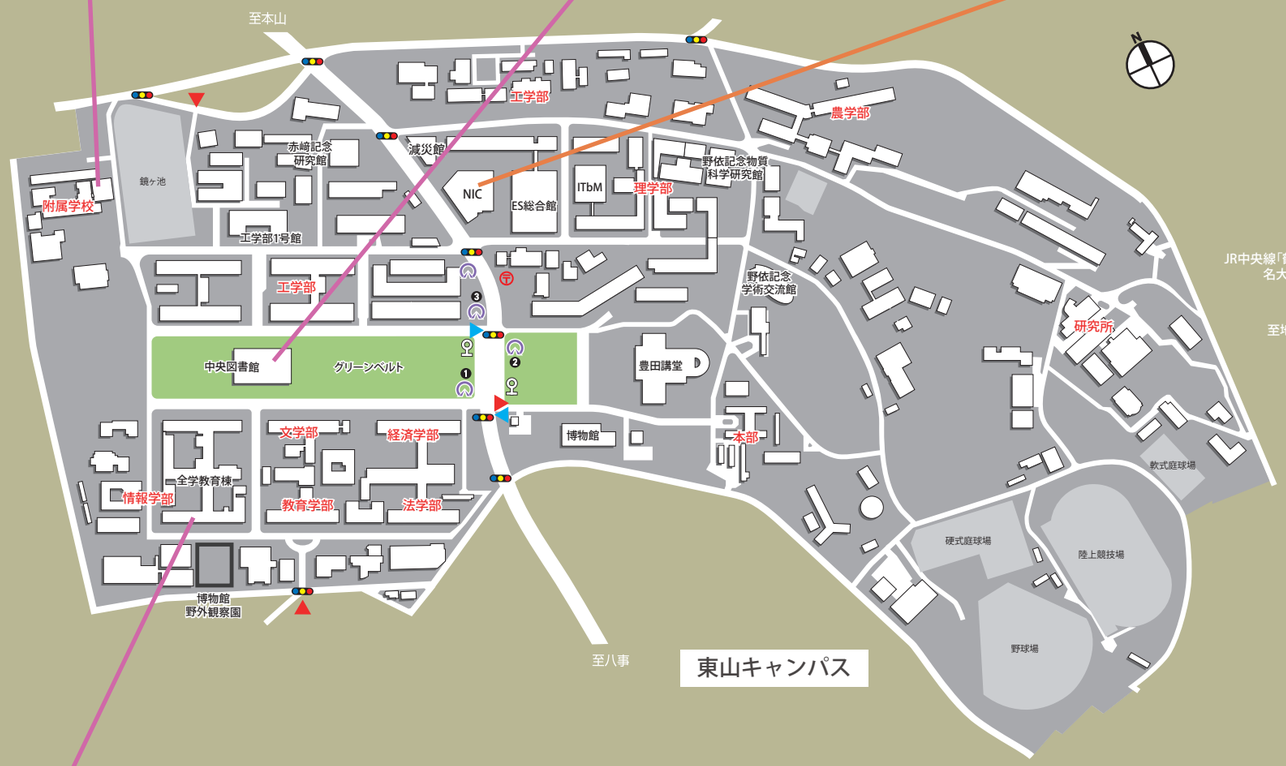
(本誌P29に掲載)

都市の木質化プロジェクト

環境コミュニケーション

生命農学研究科・環境学研究科が中心となり、学内外の関係者との協働による地元産木材を活用したキャンパス内や名古屋の都市部における木質化プロジェクトを実施しています。国際的な動きや今後の展望についても紹介しています。

(本誌P23、24に掲載)



学生サークルによる環境への取組

学生たちの環境活動

継続的に行われている環境に関するサークル活動の2016年度の成果について紹介します。

(本誌P33に掲載)

名大祭実行委員会

模擬店で使用した食用油を回収

集めた油 170ℓ
飼料やインクにリサイクル

学内や地域から寄付された古本を安価に販売

回収冊数 約 6,000 冊
学内外で集めました

販売冊数 3,849 冊
新しい読者の手へ

環境サークル Song Of Earth

下宿用品リユース市

取り扱い物品数 234 品
来場者数 204 名

花いっぱい運動

花壇の面積 454㎡
プランター 60 鉢
まいた種 50dℓ
植えた苗 1,200株

東山キャンパスごみ拾い

集めたごみ 2 袋
思ったよりごみが落ちていない！

名大祭での出店（エコ工作）

参加親子組数 50 組
ペットボトルで空気砲づくりなど

ねこサークル なごねこ

新たに地域猫とした猫：2 匹
（不妊・去勢手術した猫）
里親が見つかった猫：8 匹
一時預かりしていただいてる猫：1 匹

口内炎を治療した猫：2 匹
天国へ旅立った猫：3 匹
行方不明：2 匹

J-クレジットを活用した“名大ジェラート”商品企画

教育

全学教養教育科目「産業社会と企業」で行った、民間企業とタイアップして、製造時の廃棄ロスを減らしたエコ商品“名大ジェラート”を題材に学生自身が販売促進のためのプロモーション案を考える授業を紹介しています。

(本誌P9、10に掲載)

女性リーダーが拓くアジアの未来

教育

「食・健康・環境・社会システムと教育」をキーワードに、科学の視点から課題解決に取り組み、ウェルビーイングの実現に貢献できる女性リーダーの育成を目指す文理融合型プログラムの紹介です。本誌では参加した学生の感想も紹介しています。

(本誌P13、14に掲載)

持続的共発展教育研究センターの取組

環境コミュニケーション

ブラザー工業株式会社で2008年から実施している岐阜県郡上市のスキー場跡地での植樹活動に対し、さらに多様な生態系を実現するという目標の実現のため、学術的な観点から調査・アドバイスなどの支援を行っています。

(本誌P25、26に掲載)

身近な草むらの世界を伝えたい

卒業生の活躍

環境学研究科の卒業生である澤邊久美子さん。現在は滋賀県立琵琶湖博物館で学芸員として活躍されています。学芸員を目指すきっかけとなった在学中の研究やその研究成果を生かし学芸員として活躍する様子などをお話しいただいています。

(本誌P32に掲載)

ご意見、ご感想をお聞かせください。　名古屋大学施設管理部　E-mail：sis-kan@adm.nagoya-u.ac.jp